*パーソンズ　(2021年)*

**授業概要:　国際経済学**

これは1年間のコースです。 ほとんどの学生は通年コースに登録しますが、春学期または秋学期のみに登録できる学生もいます。 慣例上、国際経済学のコースは、**国際貿易**と**国際金融**の2つの部分に分かれています。 ほとんどの教科書（クルーグマン、オブストフェルド、メリッツ、サルヴァトーレ、ケーブス、フランケル、ジョーンズなど）はこのように分かれています。 教科書の前半は「貿易」、後半は「金融」のことが書かれています。 私はこのスタイルに従って、春学期に「貿易関連トピックス」を、秋学期に「国際金融」を取り上げます。 （ここでは純粋な金融理論を意味しないので注意してください。もちろん、いくつかの重複があります。経済学の学生は、金融理論の基礎を学ぶ必要があります。[[1]](#footnote-1) )

そうは言っても、国際経済学のより広い定義は、それを3つのもの、すなわち、**財**、**資本**、**労働**の国際移動であると説明しています。 ほぼすべての教科書は、最初のトピックである「財」を幅広く扱っています。 国際金融の典型的な教科書の半分は、それがポートフォリオ投資であろうと外国直接投資であろうと、資本の国際的な動き、政府発行の債券の国際的な売買、そしてもちろん為替レートの動きを扱います。 しかし、ほとんどの教科書は、3番目のトピックである労働の国際移動を扱っていません。 また、外国からの直接投資はしばしば貿易と国際金融の組み合わせであることが多く、それを徹底的に扱うためにはそれ自体の追加の教科書が必要になります。

そのため、コースの後半である秋学期では、国際金融のいくつかの古典的なトピック（特に、貿易赤字と黒字の起源）について説明しますが、海外直接投資についてもより詳細に説明します。 また、労働の国際移動（これは複雑なトピックでもある移民に関連しています）についても簡単に説明します。

国際金融についてもっと知りたい方は、佐藤教授の「外国為替論」を受講することを強くお勧めします。

1. ここでいう、ファイナンス（国際金融）とは、資産価格、株式市場の動き、正味現在価値、割引、債券、先物、オプションなどの意味での「ファイナンス」ではなく、為替レートの動きやその他のグローバルなマクロ問題に関心があることに注意してください。 [↑](#footnote-ref-1)